

茨高の良いところは、同級生が大学受験に真剣なところ

K. S.

東京理科大学 創域理工学部 情報計算科学科 進学
国立 茨城大学教育学部附属中学校 卒業

私は1年生の頃から放課後は学校が閉まる19時まで学校に残り、勉強していました。先生に質問することもありましたが、友達同士で得意な教科を教え合うことが多かったです。友達に教えることで自分の中でも理解を深めることができるので、お互いに良い勉強方法だったと思います。また、勉強時間を決めてその後の10分は一緒に休憩するなどの目標をたてて勉強することで、お互いに勉強を頑張る雰囲気づくりもしました。私にとって、共に勉強する友達の存在は大きかったと思います。学校以外で塾は通っておらず、学校で配られたプリントや参考書を反復していました。自分の苦手分野のプリントを先生が作ってくださることもあったのでとても助かりました。学校の勉強をすると同時に、検定の勉強もしていました。数学検定2級では、満点で2次を合格することができました。英語については、オンライン英会話で外国人講師と政治や経済、趣味等の会話をしていました。そのおかげで、英語検定でもスムーズに問題を解くことができました。

高校生活で楽しみにしていたイベントは、コロナの影響で中止になってしまうことが多かったです。しかし、開催することのできたイベントは全て充実していて、最大限に楽しむことができました。クラスマッチでは、話したことのない人とも応援の声を掛け合ったり、試合を褒めあったり、いつの間にか全員が一丸となって参加していて感動しました。所属していたJRC部の活動も例年よりも少なくなっていました。その中でも、担当の先生ができるだけ多くの活動ができるように配慮してくださり、活動しやすい環境でした。

茨高の良いところは、同級生が大学受験に真剣なところです。受験期は多くの人が放課後最後まで教室に残り、一心に勉強していました。私が勉強に集中できない時でも、そんな同級生を見ると負けてられないなという気持ちになりました。また、先生方も親身に相談に乗ってくださり、勉強方法や進路についての相談を気兼ねなくすることができました。一貫生とは3年生で初めて同じクラスになりましたが、話してみたら親切でフレンドリーに接してくれる人が多かったと思います。様々なイベントを通して仲も深まったと感じています。年間高入生と過ごしていたので、高入生の安心感はやはり大きいです。クラスが異なっても昼食や放課後は一緒に過ごしていました。

私が進学する大学には自分の学部・学科を超えて幅広い分野の知識を深めることができるプログラムや実践的な学びの場があります。私は卒業後に、社会で即戦力となる人材になりたいと考えています。次世代ネット、高度な通信技術を支え、国際的にも持続可能な社会づくりに貢献したいです。